

さいたま、川口両市に残る大規模な緑地空間「見沼田んぼ」と周辺地域の環境保全や農業文化の継承に取り組む市民グループ「未来遺産・見沼たんぼプロジェクト推進委員会」の活動が18日までに、日本ユネスコ協会連盟の「プロジェクト未来遺産」に登録された。登録は8日付で、県内2例目。同委は18日に県庁で会見し、「登録を機に田んぼの保全に携わる人を増やしたい」と表明した。

「未来遺産」登録は、地域の豊かな自然や文化を将来の子供たちに引き継ぐと、地域の市民団体が取り組む活動を推進することが目的。平成21年度から始まり、今年度は全国から応募があった21件から3件が選ばれた。県内では、25年度に熊谷市の元荒川最上流部だけに生息する県の魚、ムサシトミヨの生息地を守る活動が登録されている。

## 残そう！「見沼田んぼ」

保全活動が「未来遺産」に



市民や小学生らが参加した見沼田んぼでの稲刈り＝10月、さいたま市見沼区（未来遺産・見沼たんぼプロジェクト推進委員会提供）

見沼田んぼは広さ約1200畝。都市部としては貴重な湿地があり、多くの野生動植物が生息する。県や旧大宮、浦和両市などが10年に治水と緑地の保全を目的に基金を設立。後継者がいない耕作地を買い取り、市民らに管理委託するなど

してきた。同委は23年4月、市民団体や教育機関など計20団体により設立され、これまで約1400人の会員が体験農園や自然観察会などを主催し、見沼田んぼと周辺の保全、継承を呼びかけてきた。新井一裕委員長(80)は「みんなで一体となって見沼田んぼを残す動きが評価されたと思う」と語った。